

平成30年10月15日

平成30年

第10回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

平成30年10月15日（月曜日）午後3時30分から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史		教育長
三 留 利 夫	委 員	教育長職務代理者
芳 賀 淳	委 員	
弘 瀬 知江子	委 員	
後 藤 貴美子	委 員	
高 橋 幸 子	委 員	

2 出席職員（10名）

教育総務部長	後 藤 清
教育総務課長	森 岡 剛
教育施設担当課長	石 井 信 一
副参事（教育政策担当）	北 村 操
学務課長	杉 山 良 樹
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	増 田 亮
副参事	田 井 俊 行
学校職員担当課長	池 一 彦
教育センター所長	柿 本 伸 二
大田図書館長	中 平 美 雪

3 日程

日程第1 教育長の報告事項

日程第2 部課長の報告事項

~~~~~  
(午後3時30分開会)

#### ○教育長

それでは、ただいまから、平成30年第10回大田区教育委員会定例会を開会いたします。

10月13日をもって、鈴木委員の任期が満了になったことに伴い、10月14日付で、新たに高橋委員が区長から任命を受けたのでご紹介いたします。

高橋委員は、現在、青少年対策糞谷地区委員会会長でいらっしゃいます。また、大田区民生委員・児童委員としても、地域において幅広くご活躍されていらっしゃいます。

それでは、高橋委員から一言ご挨拶をお願いします。

#### ○高橋委員

新たに教育委員をさせていただきます、高橋幸子と申します。突然のお話で、まだ実感が湧いていないといいますか、一生懸命勉強をして、一日も早く皆様についていけるように努力したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

## ○教育長

それでは高橋委員、よろしくお願いいたします。

なお、大田区教育委員会会議規則第5条では、委員会の席次は会議に諮ることとなっておりますが、これまで委員歴の長い方及び年長者を上席にするということが慣例となっております。本日は、この慣例に倣いお席を用意いたしましたが、このままでよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

## ○教育長

ありがとうございます。

本日は傍聴希望者がおります。

皆様に傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

## ○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

## ○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を足りておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に芳賀委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

## ○事務局職員

日程第1は、「教育長の報告事項」でございます。

## ○教育長

本日は、私から3点ご報告をさせていただきます。

まず、1点目は、第3回定例議会及び決算特別委員会についてです。9月13日から10月11日までの約1カ月間にわたり議会が行われました。私は、主に各会派の代表質問に対して答えさせていただきました。

今回は、学校体育館の空調化に関わる質問が、多くの会派から出されたところでございます。今年の夏は、命に関わるような危険な猛暑でございました。これに関わる多くの質問につきましては、区長のほうからも答弁がございました。私からは、子どもたちの安

全・安心のため、また、災害時の避難所としての役割を果たすために、体育館の冷房化について対策を考えていく必要があることをお答えさせていただきました。

その他には、清水窪小学校のサイエンス・コミュニケーション科など、特別な教育課程を編成する学校教育の今後の展望について、LGBT、性的少数者の方に配慮した教育についての質問や図書館の今後の在り方についての質問、中学校海外派遣に同行した感想などの質問に答えさせていただきました。

また、一般質問につきましては、教育総務部長から、決算特別委員会の質問につきましては各課長から答えさせていただきましたが、教育に関して非常に多岐にわたるご質問がございました。教育委員会として、一つ一つの質問に丁寧に答え、議員の方々の理解をいただいたところでございます。

2点目の報告事項は、小学校の開校周年式典への参加についてです。9月22日には、東調布第三小学校の創立90周年記念式典に出席いたしました。また、9月29日には、馬込小学校の創立140周年記念に出席いたしました。いずれの学校も、開校から今日までの歴史と伝統を感じたところでございます。

東調布第三小学校は、東調布第一小学校の分教場として昭和2年に開校しておりますが、ちょうど池上線が開通したころで、学校の周りも畑が多い土地だったと伺いました。

東調布第三小学校の式典で一番印象に残ったのは、子どもたちのすばらしい歌声でございました。東調布第三小学校の式典には、3年生から6年生までの児童が参加しておりました。東調布第三小学校は、かつて、子どもたちの「かかわり活動」を大切にしていた研究をしていて、文部科学大臣が見学に来たこともございました。その時も、子どもたちがすばらしい歌声を聞かせてくれましたが、今回の式典でも、3年生から6年生が舞台のひな壇に並んで合唱しました。とてもきれいな歌声で、子どもたちの関わりや表現を大切にしてきた学校の伝統が生きているなど感じたところでございます。

また、馬込小学校の式典に参加させていただいて感じたことは、地域の学校としての歴史の長さでございます。馬込小学校は、開校が明治11年ですが、開校当時は、茅葺の教室が三つ別々に建っていて、それを教室に使ったと伺っています。また、大正14年に建てられた木造校舎の時計台が、今も学校から道一つ隔てた民家の一部に保存されてございます。いかに地域の方々が、学校を大切にしてきたかがよくわかり、感銘を受けたところです。

また、馬込文士村というように、大正から昭和の初期にかけて、日本の文化をリードしてきた文人や知識人がたくさん住んでおりました。馬込小学校の校歌も、室生犀星が作詞し、「春よ来い」「靴が鳴る」を作曲した弘田龍太郎が作曲しております。記念誌に様々な歴史的な資料が豊富にあって、馬込の方々がいかに学校を大切にしてきたかが伺われました。

また、式典には6年生が参加していましたが、大変に立派な態度でした。

馬込小学校では、現在の教育活動の様子をホームページに、毎日のように、たくさん出しております。駅伝大会の練習など、非常に知徳体のバランスのとれた教育の充実ぶりが、そのホームページにもあらわれております。

二つの周年行事に出させていただいたのですけれども、改めて地域から学校が大切にされてきたことがよくわかりました。地域に根差した学校教育の充実を現在、将来にわたっ

で行っていくことの重要性を再認識したところでございます。

3点目の報告でございますけれども、10月4日に「ふれあい蓮沼」で特別支援学級の連合運動会が行われました。大田区立小学校13校、中学校8校の特別支援学級の約400名以上の子どもたちが一堂に会して連合運動会を行いました。区議会の議長、副議長などの議員さんたちをはじめ、多くの保護者の方にもお集まりいただき、子どもたちが一生懸命競技、演技をする姿がございました。私は、開会式と短距離走を見させていただきましたが、開会式でしっかりと話を聞いている態度はとても立派でした。また、短距離走では、小学生の中には途中で走るのをやめてしまう子もわずかにいましたが、先生がちょっと声をかけたりして、元気に最後まで走る姿が印象的でございました。

校長先生をはじめ、特別支援学級の先生方が一生懸命に子どもたちを育てている様子がよくわかりました。特別支援学級では、子どもたち一人一人の個別指導計画、個別支援計画に基づいて、一人一人のニーズに応じた教育の充実を図っていますが、運動会で頑張っている姿は、その充実ぶりを感じるものでした。

特別支援学級では、運動会のほか、移動教室も小学校、中学校別に連合でおこなっております。また、展覧会等も池上会館でおこなっています。子どもたちの作品はとても素晴らしくて、熱心な先生方の指導を伺うことができます。ぜひ、多くの区民の方々にも見ていただきたいと思っております。

以上、3点について、私から最近の議会、行事について報告をさせていただきました。

委員の皆さんも行事等に参加していただいているので、ご質問、ご意見、ご感想等がありましたら聞かせていただければと思っております。

以上です。

## ○芳賀委員

私は、二つお話しします。一つは、おとといの土曜日に学校公開に行った件、もう一つが、9月30日に海外派遣の中学校の生徒派遣の報告会に行った件の二つです。

おととい、大田区のある小学校の学校公開に行ってきました。

そこで一番注目したのは、6年生が4クラスあるのですけれども、その4クラスとも今年の9月から、「社会の中の自分」という時間ができまして、そこは要するに、生徒たちが新聞記事、ニュースなんかで自分が気になったものを数分間で発表する。それに対して、ほかの生徒たちがコメントを出すという企画で、発表の内容、それに対するコメントが、いっぱい張り出されているという状況でした。かなりたまっていました。小学校6年生ですから、「広島カープ優勝」みたいなものが扱われるのかなと思ったら、然にあらずでして、題材の例を示すと、例えば諫早湾の干拓の是非について、犬の殺処分の是非について、商業捕鯨、ふるさと納税、仮想通貨、米中の貿易、あと、例えばハーバード大学でアジア系の生徒さんたちが成績がいいにもかかわらず差別をされているというようなことが取り上げられていました。もちろん、それぞれの正確さ、深さというのはいろいろあるのかもしれませんが、この小学校6年生の社会に対する関心というのは、非常に深いというか、相当なものなのだなということを実感しました。そういう感覚で何か彼らがしゃべってきたときに、決して、そんなことは今やらなくてもいいみたいなことではなくて、積極的に取り上げる方向で、ぜひ発展させることが必要だと思いました。それに対す

るコメントも、子どもたちが自分なりの考えを書いていて、なかなかおもしろいものでした。それが小学校6年生です。

次が、9月30日の大田区立の中学校の生徒海外派遣です。こちらは、中学校2年の夏休みに、28校から二人ずつ出て、一人がアメリカのセーラム、一人がドイツのブレーメンに行くという企画でしたけれども、それも大変おもしろく見させていただきました。

壁新聞というのかな、ポスターというのかな、そのいろいろな発表のところで、生徒さんたちが、自分が見たこと、聞いたこと、あるいは考えたことをいろいろ書いていらっしやいました。例えば、挨拶の仕方であるとか、日本とドイツの町並みの違いであるとか、交通機関の問題であるとか、野球場のことであるとかが書いてありました。

それはそれで大変おもしろかったのですが、逆に、ありそうでなかったものというのがあります。例えば人種のことなのです。あと、移民のこと。日本のような国から行った子なら気になってもいいのかなと思うのですが、それに触れているものはなかったのです。比較的近いのが、横断歩道を七色に染めているのが、これはひょっとしたらLGBTに関係あるのではないかというふうな指摘をしていた子がいたぐらいかなと思っております。考えてみたら、去年もおととしもなかったのです、人種とか、そういうものについて。それが何でなんだろうというようなことも、少し気になってきております。たまたま行っているところが、そういうことを目にしない地域のところに行ったのかなという気も少しはしているのですが、生徒さんたちに、前の年の先輩たちがやってきた発表はきっととてもいいものだから、同じように書けばいいんだという意識も、当然こういうときには働きます。それはそれでいいとして、もう少し社会的な視野を広げてもいいのかなという感想がありました。周りから少しそういうところを刺激してもいいし、前の年の人と同じようなことを取り上げなくてもいいんだよということが、もうちょっとだけあってもいいのかなと思いました。

この企画は大変いい企画で、ぜひぜひ来年以降もずっと続けていただきたいと思うのですが、ただ、余り同じようなことが続いてしまうと、どうしても同じことばかりになってしまうので、そういう配慮があってもいいのかなと、そのように思いました。

以上でございます。

## ○教育長

ありがとうございました。

## ○後藤委員

私のほうからは、3点ご報告をさせていただきます。

私も、9月30日の中学生海外派遣報告会に行っていました。こちらでは、大変多くの生徒さんが、大田区の施策の派遣事業ということで海外に行って帰ってきましたという報告だったので、壁新聞を各自でつくって、飾って、皆さんにお披露目するという観点がありまして、新聞もかなり細かく見させていただきましたところ、大変読みやすく、大きく大判で書いてあるものがたくさん目につきました。子どもたちは、たくさん事前学習をして現地に行くのですが、きっとそこでいろいろなことを思い、帰ってきたときには、また違った観点で思いをはせている点がとても多くあるのではないかなと

いうふうを感じた新聞も数多くありました。実行したことや食べ物、自然、地域などについて詳しく書いている新聞でしたので、あのようなことが、後輩やこれから行く子どもたちが目にしても、大変わかりやすく学習になるものの一つかなと思いました。

報告している生徒なのですが、大変立派な姿でして、プレゼンテーションの力と、皆さんに物事を発信するときの立ち居振る舞いから、発表の仕方というのが、かなり力がついている生徒さんだなどというふうにお見受けいたしました。あのように、どの子ども、人の前で話すときには、中学校3年間の間でも、高校に入ってからでも、プレゼンテーションの力をつけてから社会に出られると、大学に行けるといいのかなと思います。立派な報告をした生徒さんが、大変印象深かった報告会でありました。

二つ目は、10月4日の特別支援学級の運動会、こちらも拝見させていただきました。こちらは、私がPTAの会長時代に何度かお邪魔をさせていただいて、拝見した経験があります運動会でしたが、今回は午前中の種目を見させていただいた中で、下級生と上級生の成長の幅等がよく解る運動会といった印象でした。例えば、下級生が駆けっこで途中でとまってしまうとといった場合には、先生がすぐに寄ってきてくださって、手伝ってくださるという子どもいれば、子どもによっては上級生がすぐに駆け寄ってきて、手を引いてゴールまで連れて行くというような場面がありまして、大変ほほ笑ましく、そして、子どもたちは、やはり学校生活の中で先生や周りの大人たちのサポートのもとで、とても温かく育てているなというふうに思いをはせた運動会でありました。

一年一年成長していく子どもたちですので、やはり環境というのがとても大事ななどというふうに思っています。通常学級の生徒も、特別支援学級の生徒も、皆さん、やはり環境、私たちが環境をつくっていく立場だと思っておりますので、より一層、これから子どもたちが健やかに育つ環境をつくっていったらいいかなというふうに思っております。

三つ目は、10月12日に大森第十中学校の研究発表会に行ってまいりました。こちらは、大田区教育委員会の教育研究推進校ということで、一言で言うと、大変立派な研究発表会でありました。「わかり方の特性」といったテーマを掲げての、理科教育からキャリア教育、いろいろな観点から結果を出していこうという導きを、実践していこうというような研究の発表だったのですけれども、継次処理と同時処理というようなことを踏まえた点がありまして、一つ一つ見ていくものの考え方、同時に見ていくものと考え方といった点から、今の中学生に大変深みのある、これから継続してまた勉強していくといいかなと思うようなテーマでの研究発表ができていたなというふうに思ったのが、1番の印象でありました。

校長先生の飯島睦子先生なのですが、大変細やかなおもてなしをされる先生で、お茶をたてていただいたりですとか、学校として、せっかく大勢の皆さんに来ていただくのだから、こういう気持ちでお招きしますといった心が大変詰まった学校だな、校長先生だなと思いました。

子どもたちの姿は、全体の様子を知りたいと思い、全クラス拝見させていただきましたところ、大変活気がある子どもたちで、元気がよくて先生の話がなかなか聞けないという印象は全くなく、きちんと授業に向かう姿勢というのに活気が見えた子どもたちだなどというふうに思いました。

毎年毎年子どもたちが変わっていきますので、学校の校風だったり、子どもたちの様子

というのがやはりどうしても違ってくるのが、これは仕方がないことなのですけれども、今回の研究発表会では、どのクラスもきちんと先生の授業を聞く、わかろうとしている、「わかり方の特性」のテーマに基づいた授業展開、そして、生徒の授業を受ける態度が見えた研究発表会でありました。

私からは以上です。

### ○教育長

ありがとうございました。

### ○弘瀬委員

それでは、弘瀬から。

私は、9月29日の馬込小学校の120周年祝賀会に参加をさせていただきました。校長先生から、子どもたちが岩手県に疎開したときの話をうかがいました。住職さんに良くしていただいて、そのお礼に、自分たちの持っている切れ端でお人形をつくって、それをお礼に渡してきたという、とても温かいお話を聞かせていただきました。それがいまだに残っていて、大田区のほうで保存されているというお話も聞かせていただきました。140周年の歴史と伝統の学校であるな感じてまいりました。

それから、9月15日土曜日、その日は7校ほどの運動会がありましたけれども、1校だけ見学させていただきました。今、組体操は二段までしか組めないとのことですが、先生と生徒が非常に苦勞して、考えて編み出した体操を披露してくれたことに感動いたしました。

もう一つは、9月30日の海外派遣報告会でございます。学生さんたちは、出発が2日間遅れたということ非常に強調していらっしゃいました。その2日間で友達同士の絆を深めることができたことは、それもまた思い出に残る時間だったのではないのでしょうか。そして、その後、ホストファミリーに非常に温かく迎えられたということ、多くの場所を見学できたことなど、その発表の中に、細かく示されていました。生徒たちの経験は、今後の生活に充分生かしていってくれるものと確信しています。今後是非続けていきたいなと思いました。

以上です。

### ○教育長

ありがとうございました。

### ○三留委員

では、3点お話をさせていただきます。

1点目は、学校公開への参加です。1学期、2学期と各小中学校の学校公開に参加をしています。新しい教育課程の移行期間ということで、各学校その準備を進めており、授業改善が少しずつなされてきているかなという感じがします。子どもたちがグループ活動をしたり、討論をやったり、場合によってはディベートを入れたりとか、いろいろな工夫をしながらやっている先生がいました。反面、余り変わらないという方もいます。学校全体

として、校内研究や研修をやるなど、いろいろな取り組みをして、教師の指導力、授業力を一層高めてもらえるといいなというふうに思います。

それから、ICTにつきまして、電子黒板については、多くの学校でほとんどよく使われているなという感じがいたします。子どもたちの発表のためのツールであるとか、先生がわかりやすい説明のために使うとかがあるのですが、思考ツールとしてなど、いろいろな使い方もまだあるのかなと思っています。タブレットについては、タブレットというかパソコンだと思うのですけれども、これについては、もっと使ってもいいかなという感じがしています。

学校公開については、道徳授業地区公開講座をやっていることが多くあります。授業を観ての感想を述べます。小学校では、特別の教科道徳ということで始まっています。従前と変わらない、読み物教材の登場人物への自我関与を中心とした学習が多いのですけれども、討論をさせたりとか、グループで意見を交換したりするなど、新しい形の授業も少しずつ出てきたかなという感じがいたします。

今後も、いろいろな形で学校の道徳科、教育活動を見ていきたいなというふうに思っております。

2点目は、先ほどの海外派遣報告会のことです。コース別の活動の報告とホームステイの報告ということで、それぞれの代表者から話があったわけですがけれども、やはり貴重な体験をしてきたなという感じがいたしました。DVDもあったのですけれども、現地の方との関わりだとか、現地のいろいろな文化に触れて、子どもたちはいい体験ができたのではないかなというふうに思います。国の新しい教育振興基本計画にも、「グローバルに活躍する人材の育成」という言葉がありまして、そういったことにつながる取り組みになっているのではないかなと思います。このような取り組みが、いろいろなところに派生してくれるといいと思っています。

それから、特別支援学級の連合運動会にも参加させていただきました。私は、午前中の全ての競技を見させていただきましたがけれども、短距離走の一人一人の頑張る姿というのは、先ほどから、皆さんから話があったのですけれども、本当にすばらしいなというふうに思いました。

本当にどの競技もよかったのですけれども、私が印象的だったのは中学校の持久走でして、5分間でどれだけトラックを回ることができたかというのを競う競技なのですけれども、どの子も、本当に目標に向かって一生懸命走っていました。1周ごとに、所属校の先生が何周回ったかという目安になるリボンのたすきを渡していくのですが、そのときの教職員の声かけだとか、応援がとてもいいなと思ひまして、子どもとの一体感を感じました。「頑張れ、もう少し回れるぞ」とか、そんな話をしながら、どの子も目標をもちながら競技をしていくというのは、とてもいいことだなというふうに思いました。

それから、特別支援学級の連合運動会に関係した教職員、介添員、ボランティアの方々の仕事ぶりも大変いいなというふうに思いました。放送、ゴールテープなど、中学生が係として担当するのもとてもいいなと思っています。係として、運営の中に子どもたちが参加していくということがもうちょっとできていくといいなと思ひましたが、実情として難しいのかもしれない。

以上です。

## ○教育長

ありがとうございました。

ほかによろしいですか。

それでは、次の日程に移りたいと思います。

日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

## ○事務局職員

日程第2は、「部課長の報告事項」でございます。

## ○教育長

それでは、部課長の報告をお願いします。

## ○教育総務課長

私からは、大阪北部地震を踏まえたブロック塀等の安全確保の取り組みについてご説明をさせていただきます。

今年の6月18日に発生いたしました大阪北部地震を踏まえて、区では、地震直後から区施設や小中学校などを中心に、ブロック塀等の安全性について、一次点検及び技術職による二次点検を実施してまいりました。このたび、教育委員会所管施設を含む区施設の点検結果が取りまとまりましたので、ご報告をさせていただきます。

まず、資料の1、これまでの経緯でございます。6月19日から22日までの4日間で、施設管理者による一次点検を実施いたしました。また、6月20日からホームページの開設やブロック塀に関する総合相談窓口を設置するなど、地震直後から取り組みを開始したところでございます。

7月20日には、区報の防災特集号を臨時号として発行しまして、自宅のブロック塀の点検方法や家具の転倒防止など、自宅での安全対策を掲載して、広く区民に意識啓発を行いました。

そして、7月27日から8月23日までの間で、技術職による二次点検を実施いたしました。

また、9月1日には、新たにブロック塀等の改修に係る工事費助成事業を開始するなど、総合的なブロック塀対策に取り組んでおります。

次に、2、二次点検の結果でございます。一次点検で報告のあった施設について、技術職による二次点検を実施いたしました。点検の結果、高さ2.2メートル以上で建築基準法不適合の塀や、高さ2.2メートル未満ですけれども建築基準法不適合のおそれがある塀を有する施設が、保育園など区施設では310カ所のうち50カ所、小中学校では87カ所のうち28カ所、公園では559カ所のうち8カ所ございました。

また、一次点検で報告のあった通学路等に隣接するブロック塀等約840カ所に対して二次点検を実施したところ、高さ2.2メートルを超えるブロック塀が175カ所、建築基準法不適合のおそれや劣化等のある塀が23カ所ございました。

施設の一覧を次のページに記載してございます。表の真ん中より左側に高さ2.2メー

ル以上の塀を有する施設、表の右側に高さ2.2メートル未満ですが、建築基準法不適合の塀を有する施設を記載してございます。

教育委員会で所管している施設でございますが、高さ2.2メートル以上の塀を有する施設は、区施設の表の一番下、施設分類、その他にございます洗足池図書館、それから大田図書館の2カ所。その下にございます学校の表を見ますと、山王小学校など7カ所ございました。また、高さ2.2メートル未満で建築基準法不適合のおそれがある塀を有する施設は、学校では大森第四小学校など21カ所となっております。

1 ページ目にお戻りください。最後に、3、今後の取組みについてでございますが、今回報告した点検結果につきましては、区のホームページにて公表させていただいております。また、確認された区施設の危険箇所などにつきましては、安全対策措置や注意喚起などを既に行っておりますが、今後、速やかに改修等を進めてまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

## ○指導課長

先ほど教育委員の先生方からお話をいただいておりますが、私から、改めてご報告を申し上げます。大田区教育委員会広報、おたの教育第137号の2面でご紹介しております大田区立中学校生徒海外派遣に関連し、先日実施いたしました報告会についてお話をいたします。

台風24号の接近で開催が心配された報告会ですが、予定どおり9月30日日曜日、池上会館で開催いたしました。全区立中学校から男女2名ずつ、計56名の派遣生徒が、羽田中学校長、木崎団長率いるアメリカセーラム市を訪問したAコース、大森第三中学校長、笛木団長率いるドイツブレーメン市を訪問したBコースの2団に分かれて派遣した成果報告会となります。

ドイツBコースは、7月21日、予定どおりに日本を出発しましたが、アメリカAコースは、同日出発予定の飛行機が欠航となり、2日おくれの23日に日本を出発しております。飛行機に搭乗後、数時間待たされての欠航決定ということでございますので、派遣生徒のモチベーションが下がってしまうのではないかと心配いたしましたが、木崎団長によれば、待たされた2日間があつて、むしろ、派遣団としてのきずなを深めることができたとのお話もいただいております。

両コースともに、州議会や市庁舎、日本国総領事館を表敬訪問したり、現地の子どもたちと交流をしたりするなど、現地家庭へのホームステイを中心とした様々なプログラムを行い、8月1日に全員元気に帰国しております。

大変充実した海外派遣になったことが、派遣生徒からの報告からもわかりました。大田区とそれぞれの都市との、友好のかけ橋としての役割を立派に果たしてくれました。

報告会の後半には、派遣生徒全員で大田区イメージソング「笑顔このまちから」を歌い、すばらしいハーモニーを聞かせてくれました。歌詞の中に「あの日のキミがある限り明るい未来」という一節がありますが、派遣生徒として堂々と発表し、歌っている姿を見ている限り、近い将来、国際都市おた、世界の中の日本を支える人材として、大きく成長してくれそうな、まさに、明るい未来が待っていることを期待させる報告会となりました。

た。この「笑顔このまちから」は、訪問先の各所で歌ったとのことでございます。

また、代表生徒の挨拶の最後が、「国際社会で信頼と尊敬を得られる人間になることを誓います」と結ばれていたことも、大変印象的でした。

さらに、口頭による報告だけではなく、派遣生徒は、料理や食文化、家のつくり、生活習慣、交通、マナーなど個人の研究テーマを決めて、模造紙1枚、壁新聞にまとめており、1階展示室では、その模造紙を展示発表いたしました。

委員の先生方からいただいたご意見については、事後研修、特にテーマの設定の段階の声かけ、指導に生かしてまいりたいと思います。

今後、派遣生徒たちは、経験したこと、学んだこと、感じ、考えたことなどの活動報告を、所属している各学校で行います。

なお、Aコースへ、小黒教育長が出発から27日まで同行し、セーラム市の方との交流や現地での生徒の様子を視察していただきました。

中学校の校長先生方、派遣生徒の保護者の皆様をはじめとする区民の皆様、海外派遣にご協力いただいた関係者や区議会議員の皆様、そして、教育委員の先生方が報告会に参加していただいたことが、大変ありがたく、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

私からは以上でございます。

## ○教育長

ありがとうございました。

それでは、ただいま二つの報告がありましたが、二つのことにつきまして、何かご質問、ご意見はございますでしょうか。

## ○芳賀委員

一つだけ。2.2メートルを超えると不適合ということがあって、2.2メートル未満でも不適合の可能性があると表現になっていますけれども、そのところだけ、もうちょっと補足してご説明いただけますか。

## ○教育施設担当課長

2.2メートル以上につきましては、既に基準法の規定から不適合というふうになっております。それから、2.2メートルを超えないものにつきましては、例えば控え壁があるかないか、それから、それは目視で確認できる場所ではあるのですが、2.2メートル未満の場合ですと、必ずしも高さだけで建築基準法の基準違反にはなっていないというところで、あと、ブロック塀の中に鉄筋の配筋があるかどうか、それから、基礎としっかり定着しているかどうかというところを見定めないことには、適合しているかどうか判断できないということで、「おそれがある」という表現にしております。

## ○芳賀委員

それは、これから調査するとわかってくるということなのでしょう。

○教育施設担当課長

配筋については、非破壊的な検査等で確認ができるのですが、基礎につきましては、定着されているかどうか基礎部分を壊さなければいけないということもございますので、教育委員会としましては、基本的には、ブロック塀について撤去をして、ほかのフェンス等に改修をし直すというふうな方針で臨んでございます。

○教育長

よろしいですか。

○芳賀委員

わかりました。はい。

○教育長

ほかにごございますでしょうか。

ないようでしたら、これをもちまして、平成30年第10回教育委員会定例会を閉会といたします。

(午後4時12分閉会)